

震災がれき

紀北町受け入れ「困難」

町議会
市長答弁 処理能力など理由に

【北牟婁郡】紀北町議会定例会は十五日、再開し、東日本大震災被災地のがれき受け入れを求める一般質問があった。入江康仁議員が復興支援のための受け入れを求めたが、尾上壽一町長は同町の処理能力と国の制度未整備を理由に困難とし、議論はかみ合わなかった。

量に船舶輸送する方式を提案。建設場所も具体的に挙げた。続けて、「真っ先に発生して地域活性化になる」ことも述べた。

市長の会見に先立ち、市議会は「復旧・復興を最大限支援するため、市が受け入れを積極的に進めるよう強く求める」との決議を可決した。現地を視察した自治会長連合会も受け入れに賛同している。

市は先月16・17日、山田町のがれき10トと市内の家庭ごみ56トを混ぜて試験焼却。がれきや焼却灰などの放射性セシウム濃度や空気中の放射線量は、国や県、市が設定した基準を下回った。

尾上町長は、同町の廃棄物処理施設は、RDF（廃棄物固形燃料）化方式で、受け入れられるものに限りの状況、住民の意見、などを理由に「慎重に対応する必要がある」とした。

入江議員は既設の処理施設ではなく、新たに百ト級の焼却炉を二、三基建設し、港湾設備を使って、大